



モデル校における 研修高度化実践報告

戸田市立笹目中学校

2024年2月29日

1 校内研修の概要

- ・研修主題、主題設定の理由等

研究主題「個別最適な学びと協働的な学びの視点を取り入れた授業実践」

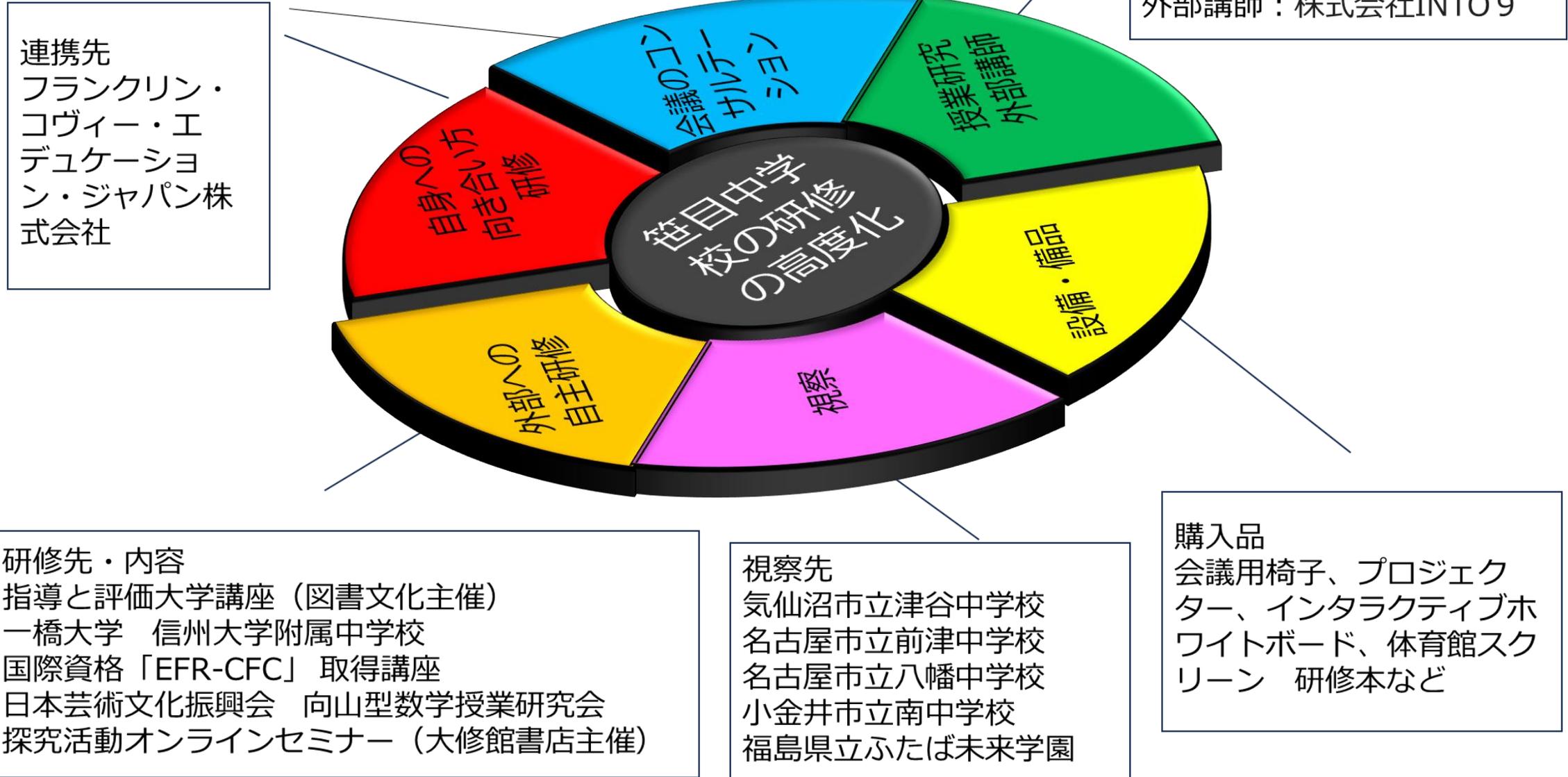
教員自らが個別最適な学びと協働的な学びを実践できるような学びの環境を整えることに取り組んだ。そして、教員の学びは生徒の学びの相似形であるという認識のもと、先進校の視察や講演会の受講など学びたい研修を選択できるようにすることで自ら学ぶ風土を作り、学んだことが生徒に還元されることを目指した。また、「7つの習慣」の研修を通して教員自らの生き方も考える機会を設けることで、心豊かな生徒を育成する土壌づくりにつながると考えた。

- ・研修推進上の課題

本校では、教員の中で研修に向かう姿勢に個人差があることが課題であった。そのため「個別最適な学びと協働的な学び」を実現するためには、教員自身が主体的に学ぶ土壌を作ることが必要であった。

2 校内研修の高度化について

研修の高度化の全体像



3 研修の具体

高度化研修の内容（フランクリン）

【7つの習慣の概要】

- ①主体的であること…ポジティブなエネルギーが影響の輪を大きくする。しかし、関心の輪は自分ではコントロールできないもの。
- ②終わりを思い描く…人生のビジョンと目的を思い描くことで、行動も変化していく。
- ③最優先事項を優先する…時間管理のマトリックスを作成することで、最優先事項が明らかとなる。
- ④Win-Winを考える…自分の考えを伝えることと思いやりどちらもバランスを保つことで、よりよい人間関係が築かれる。
- ⑤まず理解に徹し、そして理解される…相手の言葉を傾聴することから、相手を理解する。そして、伝え方も工夫し、自分も理解してもらう。
- ⑥シナジーを作り出す…意見を言いやすい環境を作り、お互いが考えている良いものを作り出していく。そのために目的と相違点を明確にする。
- ⑦刃を研ぐ…あらゆる活動を行う能力を得るために、自分の時間をとる。そのためには、毎日の活動をスケジュールリングする必要がある。

【校内研修の実践内容】

本校の校内研修では、上記の7つの習慣を体験的に学習した。例えば、グループごとにマトリックスを作成し、緊急かつ重要なものや緊急ではなく重要ではない取り組みはどのようなものがあるのかといった自らの生活の可視化を行った。また、他者を理解するということを学ぶために、カウンセリング方法を実践したり、仕事で大切にしているものは何か話し合ったりした。今後も、これらの7つの習慣を学校生活に生かしていくことで、生徒の学びの環境を整えていきたいと考えている。

先進地視察（気仙沼市立津谷中学校）

1 視察先

気仙沼市立津谷中学校

2 目的

個別最適な学びと協働的な学びのモデルとして、本校の研究に寄与するために視察に行った。

また、自己の授業力向上に向け自己研鑽のために実施した。

3 視察内容と本校の研修に生かすこと

津谷中学校では個別最適な学びと協働的な学びを自由進度学習と設定していた。生徒が一人一人実験・観察する方法や目的が違っており、教員はその生徒たちを見守り、時々助言をするだけであった。

また、振り返りシートを活用して生徒の進捗度合などを把握していた。

本校の研修に取り入れることとして、振り返りシートの継続を行い、生徒の変化を見取っていく。

さらに、自由進度学習は一つの方法として考え、ICT活用を中心として個別最適な学びと協働的な学びの実践を行っていく。

先進地視察（名古屋市立前津中学校）

1 視察先

名古屋市立前津中学校

2 目的

総合的な学習の時間では、全校で年間を通してPBL型の授業を行っており、本校の総合的な学習の時間の改革のため視察を行った。

3 視察内容と自校の研修に生かすこと

名古屋スクールイノベーションという名のもと、「地域に住む人たちをハッピーにしよう」という課題を設定し、企業と連携しながら学習を進めている。学年を混ぜてチームを組み、課題発見から企画書の作成、そして実際に企業の方へプレゼンテーションを行い、現実可能かを問う。また、企業コンサルタントの方を呼び、アドバイスをもらう時間もある。これらを戸田型PBLと組み合わせ自校に生かしたい。

先進地視察（名古屋市立八幡中学校）

1 視察先

名古屋市立八幡中学校

2 目的

ナゴヤスクールイノベーションの一環として、生徒主体の学校改革、チーム担任制など革新的な活動をしている八幡中学校から生徒主体の活動を学ぶために視察を行った。

3 視察内容と自校の研修に生かすこと

生徒主体の活動として、新しい制服の選定、自動販売機の設置など様々なプロジェクトが運営されていた。授業では、国語科で動画を用いたニュースづくりを3年生が行っていた。ニュースをより分かりやすく、魅力的にするためにどのようなスライドを用いるか、効果的なしゃべり方などPBLの視点が意識されていた。

本校でもこれらの実践例をもとに、PBLの視点を取り入れ、子供を主語とした教育活動を行っていく。

先進地視察（小金井市立南中学校）

1 視察先

小金井市立南中学校

2 目的

個別最適な学びと協働的な学びのモデルとして、教員のあり方から変容を図る南中学校から生徒主体の授業を学ぶために視察を行った。

3 視察内容と自校の研修に生かすこと

生徒主体の授業として、生徒自身が授業のレジユメを作り、自分が担当する項目についてディベートを行う授業が展開されていた。生徒自身が必要だと感じる資料を選び取り、良さが伝わるように文章を考える作業をすることで、生徒自身の理解度を高めていた。

本校でも生徒自身が情報を選び、相手に伝える機会を増やし、自ら学ぶ姿勢を育てていく。

先進地視察（福島県立ふたば未来学園）

1 視察先

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校（以下ふたば未来）

2 目的

震災と原発事故という、人類が経験したことのないような災害にみまわれ、これまでの価値観、社会のあり方根本から見直し、新しい生き方、新しい社会の建設を目指している、ふたば未来の先進的な取組を視察した。

3 視察内容と自校の研修に生かすこと

自らを変革し、地域を変革し、社会を変革していく「変革者」を育成している。

（地域課題解決の300プロジェクト実践、課題に向き合う演劇創作活動）

多様なワークスペースで、さまざまな協働学習や地域社会との交流が可能になっている。

本校では、上記の取り組みのエッセンスを取り入れ、自己実現を目指す生徒を育成していく。

4 成果と課題

・成果

本事業をとおして、教員の研修に対する意識は、自校で実施した研修前後のアンケートから研修への満足度は研修前後で5%の向上が見られた。同僚と学ぶことで、専門性や指導力が高まっているかについても研修前後で6%の向上が見られた。また、研修を重ねる毎に考えを深めていく姿勢が増し、研修中の協議や実践において、積極性を持った活動が見られた。さらに、研修の環境が充実しているかについても研修前後で21%の向上が見られ、研修の機会や機器環境に対する部分で積極性を増加できるものとなった。

備品導入において、当初は本校研修室を教員研修に向けて改善を図る方向性で進めていたが、学級数増加に伴い、研修室以外の場所でも研修を行えるようにする必要性が生じた。その為、体育館と武道場にも、研修が実施できるようにするため、各種備品を準備した。特にインタラクティブホワイトボードは黒板の無い環境にて非常に有用なものであった。また、体育館のスクリーンに関しては、従来のものが、昇降機能が故障しており、布がたわみ破損し、投影が鮮明に行えない状態であったが、今回新規に更新したことにより、体育館にての研修実施においてICTとの親和性が向上した。

・課題

今回の事業により、研究推進委員のメンバーの意識向上と多角的視点の醸成が進んだ。一方、全職員が研究推進委員と同じレベルまで視点や意識を合わせきるまでには至っていない。これは自校アンケートによる「研修を自分事として捉えていたか」という部分で、100%を目指していたが、89%留まったことから明らかである。本研修の7つの習慣から学んだ私的的成功と相互依存の関係性がまだまだ発展途上の為、学んだことが「個別最適な学びと協働的な学び」の視点を取り入れた授業実践につながるよう、本研修で実践した内容をとおして、教員の専門性や指導力を向上できるように学び直しを続けていく所存である。